

第134回 日商2級解答速報

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	備品	250,000	備品	150,000
	減価償却費	50,000	未払金	170,000
	固定資産売却損	20,000		
2	積送品	308,000	仕入金	300,000
	当座預金	199,200	現受金	8,000
	手形売却損	800		200,000
3	社債	9,820,000	当座預金益	9,775,000
			社債償還益	45,000
4	商品保証引当金	80,000	現金	80,000
5	受取手形	1,300,000	売上	1,300,000

仕訳1組につき4点。合計20点。

第2問 (20点)

(1)

銀行勘定調整表

平成○年3月31日

当座預金勘定の残高 (② 259,700)

(加算) [①] (20,000)

[③] (16,000) (② 36,000)

(減算) [②] (22,000)

[④] (18,500) (② 40,500)

銀行残高証明書の残高 (② 255,200)

※ [] には、資料Ⅱにおける番号①～④を記入しなさい。

() には、金額を記入しなさい。

(2) 資料Ⅱ

借方科目	金額	貸方科目	金額	
現金	22,000	当座預金	22,000	②
当座預金	16,000	未払金	16,000	②

資料Ⅲ

借方科目	金額	貸方科目	金額	
現金	6,000	受取配当金	6,000	②
雑損	500	現金	500	②

※決算整理仕訳は、各行に1組ずつ記入しなさい。

(3)

現金	当座預金
② 173,300	② 253,700

○…予想配点

第134回 日商2級解答速報

第3問 (20点)

精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	19,300						19,300	
当 座 預 金	32,700						32,700	
受 取 手 形	416,800						416,800	
売 掛 金	327,200						327,200	
繰 越 商 品	384,000		450,000	384,000			400,200	
				13,800				
				36,000				
建 物	900,000		1,800,000				2,700,000	
備 品	300,000						300,000	
建 設 仮 勘 定	1,000,000			1,000,000				
の れ ん	240,000			30,000			210,000	
支 払 手 形		367,900						367,900
買 掛 金		382,300						382,300
保 証 債 務		3,000	3,000					
② 貸 倒 引 当 金		8,500		6,380				14,880
② 建物減価償却累計額		324,000		45,500				369,500
備品減価償却累計額		100,000		50,000				150,000
資 本 金		1,500,000						1,500,000
利 益 準 備 金		250,000						250,000
繰越利益剰余金		363,300						363,300
売 上		4,173,000				4,173,000		
受 取 家 賃		525,000	225,000			300,000		
仕 入	3,195,000			3,195,000				
給 料	839,000				839,000			
② 支 払 保 険 料	340,000			100,000	240,000			
保 証 債 務 費 用	3,000				3,000			
	7,997,000	7,997,000						
② 保証債務取崩益				3,000		3,000		
② (未 払 金)				800,000				800,000
② 売 上 原 価			384,000	450,000	3,129,000			
			3,195,000					
商 品 評 価 損			13,800		13,800			
棚 卸 減 耗 損			36,000		36,000			
貸倒引当金(繰入)			6,380		6,380			
減 価 償 却 費			95,500		95,500			
② 売上割戻引当金繰入			62,595		62,595			
売上割戻引当金				62,595				62,595
② の れ ん 償 却 額			30,000		30,000			
② (前 受) 家 賃				225,000				225,000
(前 払) 保 険 料			100,000				100,000	
② 当期純(利 益)					20,725			20,725
			6,401,275	6,401,275	4,476,000	4,476,000	4,506,200	4,506,200

○…予想配点

第134回 日商2級解答速報

第4問 (20点)

製造原価報告書

(単位:円)

I 直接材料費		
月初棚卸高	(② 4,760,000)	
当月仕入高	(② 8,700,000)	
合 計	(13,460,000)	
月末棚卸高	(4,700,000)	(8,760,000)
II 直接労務費		(② 4,536,000)
III 製造間接費		
間接材料費	(② 431,000)	
間接労務費	(② 1,160,800)	
電力料金	(195,000)	
保険料	(410,000)	
減価償却費	(1,850,000)	
水道料金	(123,000)	
合 計	(4,169,800)	
製造間接費配賦差異	(② 87,400)	(4,082,400)
当月製造費用		(17,378,400)
月初仕掛品原価		(4,286,000)
合 計		(21,664,400)
月末仕掛品原価		(② 4,412,000)
当月製品製造原価		(17,252,400)

損益計算書

(単位:円)

I 売上高		42,580,000
II 売上原価		
月初製品有高	(2,416,000)	
当月製品製造原価	(② 17,252,400)	
合 計	(19,668,400)	
月末製品有高	(② 2,524,000)	
原価差異	(87,400)	(② 17,231,800)
売上総利益		(25,348,200)

(以下略)

○…予想配点

第134回 日商2級解答速報

第5問 (20点)

直接原価計算による損益計算書では、売上高から変動費を控除して(① 貢献利益)を計算し、さらに固定費を控除して営業利益を計算する。第1期の①は(② 1,100,000)円、営業利益は(③ 220,000)円である。一方、全部原価計算によると、第1期の売上総利益は(④ 700,000)円、営業利益は直接原価計算と同じである。

第2期の営業利益は、直接原価計算によると(⑤ 110,000)円、全部原価計算によると(⑥ 260,000)円である。この営業利益の差は、全部原価計算において期末棚卸資産に含まれる(⑦ 固定製造間接費)の分である。

仮に、第2期の製品生産量を3,000個とすると、期末製品在庫量は(⑧ 1,200)個に増える。このときの営業利益は、直接原価計算によると(⑨ 110,000)円、全部原価計算によると(⑩ 350,000)円になる。

各問につき2点。合計20点。

(注意) 当解答速報はTAC(株)が独自の見解に基づき、サービスとして情報をご提供するものです。本試験の結果等(合格基準点・可否)について保証するものではありません。なお、解答速報の内容につきましては予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。